

## 公益法人が運営する病院のヘルスプロモーション活動の実態と促進要因、阻害要因の検討

○川畑 輝子<sup>1)</sup> 中村正和<sup>1)</sup> 宇田英典<sup>1)</sup> 山田隆司<sup>1)</sup> 佐々木典子<sup>2)</sup> 今中雄一<sup>2)</sup>  
 1) (公社) 地域医療振興協会 2) 京都大学 医療経済学 ※発表者にCOI関係にある企業等はない

### 【目的】

地域医療の質向上を図る一環として、病院におけるヘルスプロモーション活動の推進方策を検討する基礎資料を得ることを目的に、地域医療振興協会が運営する25病院(以下、25病院)を対象に、活動の実態把握調査を行った。

※本調査では、ヘルスプロモーション活動を「病気や障害の有無に関わらず、すべての人が自分らしく充実した生活を送れるように、さまざまな方法を組み合わせて自らの健康をコントロールし、改善できるようにする取組」と定義した。

### 【方法】

- Formsを活用した記名式Web調査
- Web調査の回答を深耕するためのインタビュー調査 (メール・電話を活用したインフォーマルインタビュー)

・対象：Web:管理者 / インタビュー:活動実施者

・期間：Web:2022年4月 / インタビュー:同7~8月

・Web調査内容：

- ①活動内容 (患者,地域,職員の3対象別選択肢)
- ②活動拡充に対する意欲,重要性,自信(10-Likert Scale)
- ③促進要因・阻害要因 (自由記載)

・インタビュー調査内容：

活動の実施主体および実施内容の詳細

※ 倫理配慮：地域医療振興協会倫理審査委員会の承認を得た

・解析方法：

- ①回答を病床数,機能,職員数別に量的に分析 (活動項目：t検定 / 意欲等：Mann-Whitney U test)
- ②自由記載およびインタビュー結果を質的に分析

### 【結果】 回答率：100% (n=25)

図表1 対象別活動実施状況

対象	実施施設数 (%)
患者	24 (96.0)
地域	24 (96.0)
職員	25 (100.0)

図表3 活動拡充に対する意欲

	中央値(25-75%ile)
意欲	7.00 (5.50-8.00)
重要性	7.00 (6.50-9.00)
自信	5.00 (3.00-6.50)

#### 患者対象

- ・健康教育 (待合室等での情報提供,各種予防教室等)
- ・医療福祉相談 (生活困窮者への相談,無料定額診療等)
- ・患者会の運営・支援 (がん患者の会,認知症家族会等)

#### 地域対象

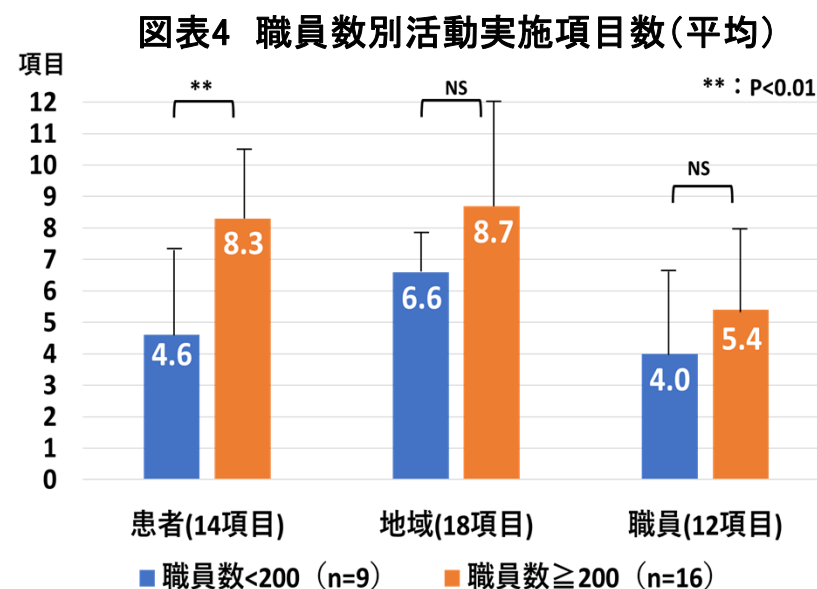
- ・講演,各種健康教室 (糖尿病教室等),病院祭等のイベント
- ・介護予防(フレイル予防)教室,認知症カフェ,サポーター養成
- ・ホームページ,SNS等での情報発信

#### 職員対象

- ・トレーニングマシンの設置,運動会等運動促進,腰痛予防指導等
- ・食堂での栄養表示,150円朝食の提供等の食環境整備
- ・禁煙希望者への禁煙治療 (新しいプロトコルによる充実した禁煙治療)

#### 図表2 主な活動内容・具体例

全施設何らかの活動を各々の規模や特性に合わせて実施し、活動拡充にも意欲的(図表1~3)



#### 図表5 活動拡充の促進要因と阻害要因

##### 促進要因

- ・経済的,人的支援 (補助金,担当者の配置等)
- ・体制づくり (委員会の設置等)
- ・人材育成 (活動の意義を知る勉強会等)
- ・外部支援 (相談窓口の設置,ノウハウの提供等)

※特に意欲と自信の高い病院が人材育成と外部支援を挙げた

##### 阻害要因

- ・業務量の増加,超過勤務の発生
- ・コロナ禍による活動制限
- ・ノウハウ不足 (企画,集客力等)

※特に職員数少なく意欲と自信の低い病院が「ノウハウ不足」を挙げた

職員数の少ない病院は特に患者対象の活動が少なく,ノウハウ提供等の支援が必要(図表4~5)

### 【まとめ】

- ①25病院は既に各々の規模や特性に合わせて何らかの活動を実施し、拡充にも意欲的だった。
- ②職員数の少ない病院は、活動全般,特に患者対象の活動が少なく,ノウハウ提供等の支援が必要と考えられた。
- ③本調査ではヘルスプロモーションの定義を広くとらえ実施したため,医療や通常業務との線引きが難しい内容も散見された。今後ヘルスプロモーションの定義をどう整理していくかが課題となる。
- ④本調査結果ならびに好事例を地域医療振興協会学術大会(2022.10.15-16)で共有し,今後の進め方について意見交換を行う。